（様式１）

自　己　評　価　票

作成日　　平成２２年１１月２３日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	０８７４０００２１９		
法 人 名	社会福祉法人青洲会		
事業所名	グループホームどんぐり荘	ユニット名	ぐりちゃん家
所 在 地	〒３００　－２３０２ 茨城県つくばみらい市狸穴１０７２－４６		
自己評価作成日	平成２２年１１月２３日	評価結果 市町村受理日	平成　　年　　月　　日

※　事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所 在 地	〒310－8586 水戸市千波町１９１８番地　　茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成　　年　　月　　日	評価確定日	平成　　年　　月　　日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者いつまでも自分らしく、自立した生活が送れるような支援を目指している。日々の生活の中で、それぞれが役割を持ち、助け合い、家族のように過ごし、楽しみや生きがいを持って暮らせる環境作りに力を入れている。学童の導入、動物の飼育、畑作業、様々なプログラムを実施し、認知症の予防、自立支援に努めている。また、地域密着型として、近隣商店、理美容室の利用、清掃活動等の取り組みも行い、地域に根ざしたホームを目指している。地域貢献として無料の家族介護者教室も行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

自己評価	外部評価	項　　目	自　己　評　価 実　施　状　況
	Ⅰ	理念に基づく運営	
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、管理者と職員が参加し作り上げたものである。家族や来訪者にも、理念がわかるように、玄関に掲示している。職員の意識付けのために、名札の裏に理念を入れ、いつでも確認できるよう工夫している。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者・家族の了解を得ながら、できるだけ、近隣の商店、美容室、理髪店を利用し、地域の人々とつながりをもてるよう支援している。自治会の行事への参加や飼育中のうさぎを通して、隣の保育所の園児と中庭にて交流を図っている。又、頻度は少ないが、独自に近隣のゴミ拾いを挨拶運動を兼ねて実施している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症介護者教室を計３回を１クールとし、前期・後期に別け、実施している。
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	２ヶ月に１回を目安で運営推進会議を開催し、ホームでの取り組みを、資料、広報誌等で報告を行っている。参加者から意見を頂き、評価表の記入もご協力いただいています。現場へ伝達し、改善や新たな取り組みに活かしている。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に運営推進会議を開催している。その際には、市の担当者が毎回出席してくださり、活動状況やケアサービスの取り組みをお伝えさせていただいている。また、電話での情報交換を行っている。市内のグループホームで連絡会を発足し、市の担当者にも参加をお願いしたり、認知症サポーター養成などでも市とも連携を取っている。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人事業所内にて、権利擁護や高齢者の尊厳についての研修等にて、職員の学びの機会があり、法人の指針に基づいて、職員全員が身体拘束をしないケアを意識して、ケアできるよう法人全体で取り組んでいる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	法人内での研修会や外部の研修を通して知識の習得に努めている。入浴時の身体状況のチェックを含め、虐待が見過ごされることのないよう、防止に努めている。

自己評価	外部評価	項　　目	自　己　評　価 実　施　状　況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内で研修を行っており、職員が参加し知識を深めている。現在は、活用する機会は多くないが、今後も定期的に学ぶ機会を持ち、必要時に、適切に支援できるようにしていきたい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は、書面を用いて説明を行い、入所者の不安や疑問点を解消できるようにしている。入院時や退所時など、入居者やご家族が安心していただけるよう十分な説明を行い、了承を頂いている。
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	カンファレンスや面会時、運営推進会議等で意見や質問、要望などを頂いている。アンケートを依頼し、改善等に活用している。外部機関については、契約時の説明や玄関に掲示している。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者と職員で定期面接を年に２回行っている。グループホーム定例会議等を開催し、職員の意見を聞く場として活用している。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年２回の定期面接を活用している。介護課業表を活用しながら、目標を話し合いの上で設定し、目標達成に向けてのアドバイス、取り組み後の評価を実施している。目標を持ち、チャレンジする事、また、達成感を味わうことで意欲、やりがい、向上心につなげるようにしている。その際に、悩み、人間関係、職場環境等についても聴いている。
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で年間スケジュールをたて、勉強会を実施している。勤務の都合に合わせて、参加できるように、同様の内容を２日にわけて行っている。外部講師を依頼することもあるが、覚えた知識を深められるよう、職員が講師を担当する仕組みとなっている。また、職員の力量に合わせて、認知症介護実践者研修など外部研修にも参加している。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市内のグループホーム連絡会に参加している。月に１回程度の会合、事例検討、症例発表等を行っている。

自己評価	外部評価	項　　目	自　己　評　価 実　施　状　況
Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人のそれまでの暮らしや嗜好等、出来る限りの情報理解した上で、傾聴し、その方のペースを大切にしながらのコミュニケーションを心がけている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申し込みの段階から、積極的にご家族の意見や要望を聞くことが出来るよう心がけている。入居間もない時期には、連絡や相談を密にすることで安心して頂けるように努めている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	申し込みの段階で、検討を行い、場合によっては。併設の在宅サービス、居宅介護支援事業所のケアマネージャーに相談をしている。
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事前に情報を収集し、本人ができることを把握して、役割をもっていただいている。学童の子供が入居者に教えていただく機会もあり、互いに支えあう生活を意識しながら支援している。
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族から本人の生活歴や好むもの等を情報収集し、介護に対する意向や思いを確認・共有し日々の生活に生かすことに努めている。定期的な面会、外出、行事への参加等の機会もお願いしている。
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同施設内の在宅サービスをご利用の友人との面会やお墓参り、逆デイ等の支援を行い、地域との関係や馴染みの関係の継続に努めている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の個々の性格や社交性をふまえ、入居者同士の組み合わせや食事の席等を工夫している。又、気の合う仲間が出来るように職員が間に入ってきっかけをつくるなど、利用者同士の関係が深めるよう支援している。

自己評価	外部評価	項　　目	自　己　評　価 実　施　状　況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者の身体の状態等で、ホームでの生活が困難となり、家族の希望があった場合は、関連施設との連携をとり、入所の相談、連絡調整、送迎等の援助をしている。
Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者個々の思いや意向を把握した上で一人ひとりに接している日常の生活の場においても自己決定や選択を増やし、本人のペースに合わせて支援している。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、情報収集やアセスメントを行っている。ご本人様の思いを把握し、日々の支援に生かしている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの暮らしでの役割や携わってきたこととして、手工芸、畑仕事、料理、洗濯たたみなど、生活を通しての活動を重視して取り組んでいる。本人の出来ること、出来ないことを見極めながら、本人のペースに合わせて生きがいや意欲につながるよう支援している。
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の望む暮らし、思いを大切にしながら、本人、家族を交えて話し合いをしている。思いや意見をアセスメントした上で介護計画を作成している。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケア記録の他に、職員間で情報の共有の為に、連絡ノートを活用している。日々の気づき等も連絡ノートに記載し、それをもとに話し合いの場活用し、ケアの実践や介護計画の見直しに生かしている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の在宅サービスから入居された方もおり、入居後も、逆デイで遊びに行ったり等、他部署の職員とも連携を図り、柔軟な対応ができている。

自己評価	外部評価	項　　目	自　己　評　価 実　施　状　況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には民生委員が参加してくだっさっている。自治会長にも参加依頼しているが、仕事があり調整が難しいとの事で会議内容の報告、行事・防災訓練告知の協力等で連携を図っている。近隣の商店や理美容室の活用し、入居者の顔や生活の様子等をこちらから発信できるように努めている。防災訓練時には、消防署に連絡し協力を頂いている。
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関のクリニックの主治医が往診や臨時の受診、相談にも対応してくれている。眼科や、皮膚科、往診以外の対応は緊急時を除き、家族と連携しながら対応していただいている。
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が配置されており、日常の服薬管理や健康管理等の業務の他にも、介護現場において入居者、職員との関係づくりに努めている。又、医療面での職員からの疑問や不安な点に対して、勉強会、伝達会等を実施している。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族の意向を確認しながら、病院との連携を図っている。看護師は病院のムンテラに家族と共に参加し、治療経過や注意事項等の説明を聞き、受け入れ体制を整えている。又、往診の際にも情報の収集を行い連携を図っている。
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時のカンファレンスの際に、重度化の場合や終末期のホームでの看取り指針の説明を行い、本人、家族の意向を確認している。看護師や主治医とも連携を図り、職員、家族、併設事業所、地域も含め、全体で関われるように支援している。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを元に、急変や事故発生時に適切で迅速な対応が出来るようにしている。
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年２回の総合訓練を実施している。消火栓や消火器の取り扱いについても、入居者も一緒に参加し行っている。近隣の方にも告知を行って参加を促しているが、参加が伸びていないのが現状である。今後、参加数の増加が今後の課題である。

自己評価	外部評価	項　　目	自　己　評　価 実　施　状　況
Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入職時には、接遇や高齢者への対応を学ぶ機会を設けている。個人情報の取り扱いについても説明し、同意書を作成している。また、入職時以外にも法人内で個人情報等についての研修を実施し、知識を深めている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	センター方式を活用したアセスメントの情報を把握した上で支援している。又、話しかけるときには、本人の目線に合わせて、ゆっくりとしたペースで対応するように心がけ、献立等を決める際に、本人が選んだり、決定することが出来るような問いかけや促しにも努めている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の思いを聞き出しながら、希望に添えるように支援している。自分の思いをうまく表現できない入居者に対しても、アセスメントをもとに、本人の好むことや今まで行ってきたことを実践して、良い表情されたことを再度、アセスメントしている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好きなものや馴染みのもの衣類を選ぶことが難しい入居者に対しては、好きな色や形などを考慮し、入居者と一緒に衣服を選び、おしゃれを楽しめるよう支援している。また、近隣の理美容室を利用したり、他にも訪問美容等、本人の希望にあった形で、おしゃれや身だしなみが楽しめるよう支援している。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、調理、盛り付け、配膳、後片付けと入居者の能力に応じて、分担し参加している。その日の食材で一緒に考えている。又、お弁当箱につめる等、いつもの食事の雰囲気と変化をつけ、食事を楽しむことが出来るよう工夫に努めている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量の低下等が見られるときには、チェック表を活用して栄養のバランス、体調不良等の早期発見、脱水の予防等に配慮している。本人や家族とも相談しながら、嗜好品を取り入れたり、食事形態等にも工夫して行っている。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯磨きやうがい等の援助にて、自立されている方は、本人に任せて声掛にて行っている。その方の能力に合わせて、準備、誘導、後片付け等の支援を行っている。入れ歯の方は、夕食後洗浄剤を使用し清潔保持に努めている。必要に応じて歯科往診等の対応も行っている。

自己評価	外部評価	項　　目	自　己　評　価 実　施　状　況
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	以前は、入居間もない方、体調不良の方等、期間的に排泄パターンの把握の為、チェックを行っていた。現在は、全ての入居者に対し自立、誘導、失禁の有無等が分かるようにチェックし支援している。排便に関しても同様に行い、排便コントロールしている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬をなるべく使用せず、食物繊維や乳製品等を多く取り入れ、散歩や体操を行い自然排便を促している。個々に合わせて、朝一番に牛乳を飲んでいただいたり、水分の量や飲んでいただくタイミング等を工夫して行っている。
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	時間や曜日を設定せずに、基本的には好きな時間に入浴できるよう支援している。併設サービスの大浴場への入浴なども行っている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室で過ごす時間やアコーデオンで仕切れる畳で休む時間も設け、共同生活でのストレスに配慮している。夜、寝付けないときなどは、一緒にお茶を飲んだりして、気持ちよく眠れるよう支援している。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を冷蔵庫にはり、いつでも目が通せるようにしている。薬が変更された場合は、注意事項は、看護師から伝達あり、薬情を確認している。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴ややりたいことを尊重し畑作業、料理、散歩、手工芸等、役割を持ち、やりがいを持って過ごせるよう支援している。
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中庭やデッキに自由に出られるようになっている。又、墓参りや併設サービスに行く、散歩、買い物、自宅の様子を見に行く等個々の希望に対応出来るよう努めている。

自己評価	外部評価	項　　目	自　己　評　価 実　施　状　況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にホームで管理させていただいているが、買い物や外出時は、個々に財布を持っていただいて支払いを行い、金銭感覚を失わないように支援している。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節の挨拶や家族などから手紙が来たとき等、本人が手紙を出せるよう支援している。家族からの電話には本人につなぎ、連絡を希望する時も本人がかけられるよう支援している。
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間に、こたつ（冬季）、ソファーを配置する等ゆとりの空間の確保、入所者の馴染みに近い家具や小物を配置いて、居心地よく過ごせるよう努めている。又、入居者と共に季節の飾りを作成して、飾っている。また、すだれを活用し、光の調整をしている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂と居間をアコーデオンカーテンで仕切れるようにして、居間でゆっくりと過ごせるようになっている。居間や、食堂にもソファー、中庭やデッキにもベンチを設置して、自由に居場所が選択できるようにしている。
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に自宅に訪問し、本人の自室の環境を確認させていただいている。家族に、使い慣れたもの、馴染みの家具等を持参していただけるように説明、依頼、相談をしている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全てバリアフリーにするのではなく、玄関、ウッドデッキ等にも適度な段差をつけている。目で見てわかる段差のしつらえ等の工夫をしている。

	Ⅴ　アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：23,24,25）	○	1,ほぼ全ての利用者の
			2,利用者の2/3くらいの
			3,利用者の1/3くらいの
			4,ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：18,38）	○	1,毎日ある
			2,数日に１回程度ある
			3,たまにある
			4,ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：38）	○	1,ほぼ全ての利用者が
			2,利用者の2/3くらいが
			3,利用者の1/3くらいが
			4,ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1,ほぼ全ての利用者が
			2,利用者の2/3くらいが
			3,利用者の1/3くらいが
			4,ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1,ほぼ全ての利用者が
		○	2,利用者の2/3くらいが
			3,利用者の1/3くらいが
			4,ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：30,31）	○	1,ほぼ全ての利用者が
			2,利用者の2/3くらいが
			3,利用者の1/3くらいが
			4,ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 （参考項目：28）	○	1,ほぼ全ての利用者が
			2,利用者の2/3くらいが
			3,利用者の1/3くらいが
			4,ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 （参考項目：9,10,19）	○	1,ほぼ全ての家族と
			2,家族の2/3くらいと
			3,家族の1/3くらいと
			4,ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：9,10,19）		1,ほぼ毎日のように
			2,数日に１回程度ある
		○	3,たまに
			4,ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）		1,大いに増えている
		○	2,少しずつ増えている
			3,あまり増えていない
			4,全くいない
66	職員は、活き活きと働けている。 （参考項目：11,12）	○	1,ほぼ全ての職員が
			2,職員の2/3くらいが
			3,職員の1/3くらいが
			4,ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1,ほぼ全ての利用者が
			2,利用者の2/3くらいが
			3,利用者の1/3くらいが
			4,ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1,ほぼ全ての家族等が
		○	2,家族等の2/3くらいが
			3,家族等の1/3くらいが
			4,ほとんどいない